

知られざるアンゴラの素顔

はじめに

日本はアンゴラの独立後間もなく外交関係を樹立しましたが（1976年）、その後27年間内戦が続いたこともあり大使館を開設したのは2005年のことです。まだまだ歴史の浅いアンゴラとの関係をどうやって深めていくかが私に課せられた使命と思っています。着任後約2年間の現地での仕事を振り返りつつ、日本でもまだよく知られていないアンゴラの素顔を少し紹介したいと思います。

1 歴史的転換期のアンゴラ

アンゴラでは昨年、総選挙が行われました。アフリカにおいて多くの国で選挙のたびに混乱が起こる中、アンゴラにおいて38年ぶりとなる政権交代が平穏に行われるのか内外の関心を集めました。アンゴラは高い経済ポテンシャルを有しており（アフリカで第3の経済規模、第2の産油国）、日本としても今後のアンゴラとの関係の方向性を定める上でこの選挙は極めて重要な選挙であると注目していました。アンゴラが国の威信をかけ、民主的な選挙を実施し、平和的に政権の移譲を行ったことは、アンゴラの政治的安定性を内外に示すことになりました。私はこの歴史的転換期のアンゴラに勤務する幸運に恵まれたと考えています。

2 日本食は重要な外交ツール

選挙の際も含め日常様々な形で情報収集と人脈形成を行っていますが、これらに欠かせないのが会食です。私は当初、アンゴラではまだ日本食はそれ程浸透していないだろうと想像していましたが、その予想は見事に裏切られました。ポルトガルの影響もあり、アンゴラ人には豊かな食文化があり、有識者層や若い世代を中心に急速な日本食ブームが訪れています。外務省には公邸料理人制度というとても有難い制度があり、私も日本から料理人を帯同していますが、政府要人や有識者、各国大使を頻繁に公邸に招き日本料理を振る舞っています。これらの機会は、美味しい日本食、また日本酒、日本産ワインなどをプロモーションし、日本の伝統的食文化や日本産物をPRする最良の機会ともなっています。

3 ちょっと違うポルトガル語

情報収集、人脈形成、情報発信に不可欠なのがポルトガル語。アンゴラでは

ポルトガルのポルトガル語が使われています。ブラジルでの経験しかない私もポルトガルのポルトガル語がわかりにくいことは知っていましたが、発音もさることながら、単語の使い方に結構多くの違いがあることを実感し、日々新たな発見をしています。**se calhar**(多分、ブラジルで **talvez**)、**miúdo**(男の子 **menino**)、**avariado**(故障中 **estragado**)などブラジルでは使わない単語には何度か戸惑いを覚えました。**rapariga** や **camisola** など使い方を誤ると危ない単語です。言語に限らず、同じポルトガル語圏とは言え、まだまだ多くの知らないことがあり、日々勉強です。

4 アンゴラでもポップカルチャーが人気

両国の関係を強化するためには相互理解が不可欠。そのため、文化、スポーツ交流にも取り組んでいます。和食と並んで急速に注目が集まっているのがアニメをはじめとするポップカルチャーです。昨年、文化庁派遣の日本文化伝道師としてセバスチャン増田さんがアンゴラを訪問し講演会やワークショップをおこないました。恥ずかしながらセバスチャンって誰？と思っていた私でしたが、驚いたことに、講演会場は若者でほぼ満席でした。

インターネット、SNSを通じた文化のグローバル化を痛感するイベントでしたが、日本大使館も昨年 **Facebook** を開設しスピード感のある情報発信に務めています。フォロワーはまだ5000人弱です。ところが、地元で寿司を提供する某レストランのフォロワーは5万人を超えています。まだまだ発信力の強化の必要性を痛感しています。

5 アフリカで一番強い女子ハンドボール

日本ではハンドボールというスポーツがあまりメディアでもとりあげられないので知らない方も多いと思いますが、アンゴラの女子ハンドボールは長年のアフリカチャンピオンです。2019年には女子ハンドボールの世界選手権(開催地は私の郷里熊本)、2020年は東京オリンピックにも出場も有力視されており、日アンゴラスポーツ交流の絶好の機会となることを期待しています。また、アンゴラでは空手も長い歴史があり、本年、日本から草の根文化無償協力で畳と電光掲示板を供与しました。

6 積極的な経済外交

アンゴラにはオイルマネーがあり、2002年の内戦終了後短期間の間に急速な復興と発展を遂げましたが(2004年から2008年は平均17%成長)、過度に石油に依存しており(輸出の9割以上)、2014年以降の石油価格の低迷により経済が冷え込んでいます。それでも一人当たりのGDPは約3

500ドルとアフリカの中では飛び抜けています。昨年9月に就任したロウレンソ大統領は経済の多角化を目指し、投資環境を整備しつつ積極的な経済外交を展開しています。石油以外ではダイヤモンド、鉄鉱石などの鉱物資源、農業、漁業など大きなポテンシャルがあり、観光資源も豊富です。

その中で日本に寄せる期待も大きく、TICAD 7（横浜、来年8月）をはじめ、訪日する機会が近い将来に想定され、日アンゴラ関係が飛躍的に発展することが期待されています。